



中学部 数学科 一題材の実践と振り返り

題材名:『凄腕バイヤーへの道』で、複数の値段の変化を差や割合を用いて比べ、値上がり方やかかる費用などを求めて商品を仕入れよう

授業者:神崎 稔正

学習指導要領の段階と内容		中学部2段階 変化と関係	題材目標
知・技	イ(ア)⑦簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知る。		『凄腕バイヤーへの道』で、商品の値段の値上がり方を求める時、割合の意味や基準量と比較量の関係がわかり、比較量(値上がり後の値段)÷基準量(値上がり前の値段)で立式して答えを求め、△倍と答える
思・判・表	イ(イ)⑦日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察すること。		過去に売れた商品の年度ごとの売り上げの変化と複数の商品の年度ごとの売り上げの変化を比較して、今後売れそうな商品を仕入れる時、変化の様子を差で求めるか、割合で求めるか考え、それぞれの商品の变化の仕方を判断して、これまで売れた商品と近い売り上げの変化をしている商品を仕入れる
学び	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理すると数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。		場面や問われ方が変わっても、基準量と比較量、割合の関係を用いて求めたい数量を求める

授業づくりの手順

前題材までの到達状況から知識及び技能を列挙する

列挙した知識及び技能を段階化する

段階化した知識及び技能から指導内容の範囲を決定する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために内容を細分化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

考察

★生徒の声を取り入れた評価と改善(題材終了後の授業アンケートより)★

【教材の仕組み】

○「お金(金銭)で考えるとわかりやすい」という回答が複数あったため、バイヤーとして仕入れるという仕組みはよかった。

【題材目標・計画】

○本題材ではグループの生徒全員(5名)の題材目標・計画が同じものとした。アンケートより「難しかった」という回答もあれば、「(問題が)もっと難しくなるとよい」という回答もあった。学習指導要領上、取り扱う内容が同じでも、三次の題材計画や1時間の中の問題配列などより個別化する必要性があった。

教材の仕組み

教材名:『凄腕バイヤーへの道』 仕組み:バイヤーとなり、依頼主の条件に合う商品を仕入れる生徒の活動:①依頼文の内容を確認(仕入れる商品と予算)
 ②複数の店舗から自分にとって必要な情報を読み取り、メモする
 ③読み取った内容から差や割合のどちらで求めるか判断し、立式して答えを求める
 ④求めた答えが条件に合うか判断し、仕入れる商品を決める
 ⑤友だちと考え方や答えを確かめ合う→教師に説明する→仕入れ完了!

附属データ分析班

9月12日 月 日 月 日 月 日

5人で一致団結

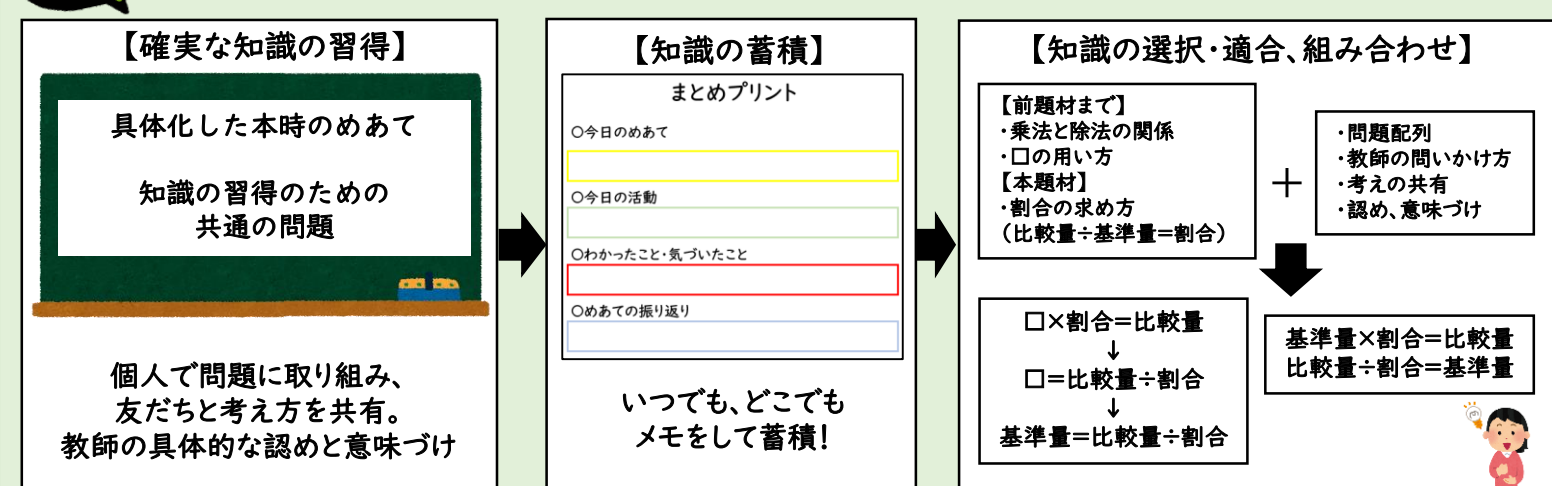
月 日 月 日 月 日 月 日

観点別評価

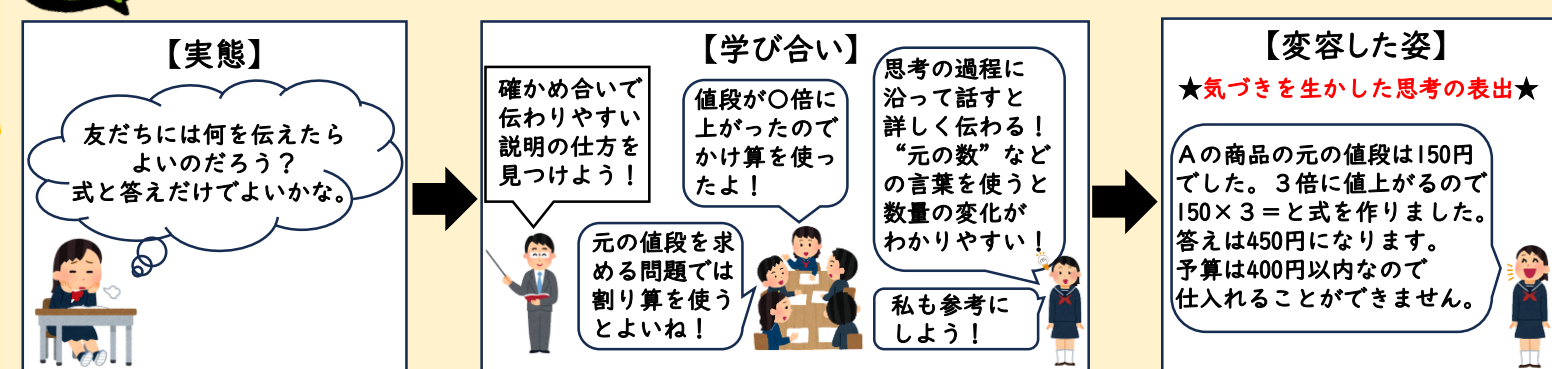
知・技	『100円の商品が400円に値上がりました。何倍に値上がりましたか』の問題に対して、 $400(比較量) \div 100(基準量) = 4(倍)$ と立式して、4(倍)と答えを求めることができるなど、基準量と比較量を用いて立式して割合を求めることができた。
思・判・表	複数の商品の売り上げの変化を、差や割合を用いて求め、「2010年から2015年の間で2倍、2015年から2020年の間に4倍になっている。どんどん売り上げが伸びているので同じ変化をしているAの商品が売れると思う」と答えるなど、差や割合を用いて変化の仕方を求め、これまで売れた商品と売り上げの変化の近い商品を答えることができた。
主体的な姿	値段から面積(m ²)や長さ・高さ(cm・m)に関する問題や、差や割合を複数回用いる問題(例:Bは30m ² です。BはAの2倍で、CがBより25m ² 大きいです。AとCの面積を求めましょう)に対して、これまでの学習プリントや“まとめプリント”を参考にしながら基準量と比較量、割合の関係を用いて答えを求める姿が見られた。



知識の習得と蓄積が生む新たな気づき



思考の表出の仕方に気づくための学び合いの場面設定



題材終了後の内容理解度チェック

